

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」(2)

平成 24 年 11 月 29 日

村山 章

東日本大震災の後、「絆」という言葉が盛んに口にされました。私は「絆」より「情」の方が好きですね。「絆」には人と人の結びつきが含まれますが、「情」には、「人情」とか「情が移る」など深い愛情の意味が含まれると思います。さらに「情」が付く言葉を並べれば、純情、友情、慕情、熱情、温情、同情と、人と人との醸し出すさまざまな人生の機微が思い浮かびます。歴史小説では、顔さえ見たことがない男女が政略のために結婚する場面が登場します。しかし、共に苦難を乗り越え年月が立つと、政略結婚の被害者だった二人が深い深い夫婦愛で結ばれます。こんなエピソードの根底にも「情」が関係していると思います。また幼馴染と久々に会うと、さほど話をしなくても一緒にいるだけで心が和みます。そんな関係を感じられるのも、人間に備わった

「情」のお蔭なのではないでしょうか。私が子供だった頃、近所で不幸があると周りの家は薪とお米を少しずつ不幸があった家に持ち寄りしました。葬式でたくさん薪とお米を使うからです。今より半世紀ほど前の話ですが、皆が助け合って生きていました。日本は島国で四季の変化が激しく、そして地震の多い国です。皆で助け合わないと生きて行けないために「情」の深い日本文化が生まれたのではないのでしょうか。私達が「絆」と言う場合、恐らくこの「情」の意味も多分に含まれているのでしょね。

この半世紀で日本は高度経済成長を成し遂げ、豊かな国になりました。確かに「絆」や「情」には時として煩わしさも伴います。しかし、豊かになり助け合わなくても生きていけるからと言って、「絆」や「情」で結ばれた関係をおろそかにすることは、人にとって最も大切なものを忘れてしまうのと同じ気がします。知能を磨くことは物質的豊かさにつながります。それを否定する訳ではありません。しかし「絆」や「情」を大切に生きる姿勢は、最も大切な「心」の豊かさにつながると思います。